

令和二年度 段位検定試験発表

総評

審査委員長 東山 右徹

内閣府の認可を受けた「公益社団法人日本総合書芸院」による段位・級位の認定は、社会的公証資格の一つとして、入学や入社の際の評価が広まっています。本年度も、予め選任された九名の審査委員によって、一作品ごとの厳格な鑑別の結果を理事会で諮り、以下の通り決定されました。

今回の受験者総数は、二二七名で、Aクラス（師範の受験）は、毛筆の部が十七名の受験で八名の方が合格されました。また、硬筆の部では九名の受験で、三名の方が合格し、それぞれ本院の師範に認定されました。学童師範については、一名の方が見事合格されました。

Bクラス（準師範の受験）は、毛筆の部が、四十五名の受験で、二十六名の方が合格し、硬筆の部では十三名の受験で、七名の方が合格され準師範に認定されました。Aクラス・Bクラスにおいて見事合格された皆さんは、いずれも日頃の研鑽の成果であり、あらためて心からお喜び申し上げます。

残念ながら合格に至らなかった方には、誤字や脱字があったり、不得意、苦手意識の科目が顕著に表れ、精気に欠けるものも見られました。日頃から辞典で調べる事や、

不得意のところの練習に努めていただきたいと思ひます。

特に仮名の条幅作品については、例月の出書が無く、試験時だけの俄か書作が多く、全般に低調な出来でした。今回の結果でも、普段の取り組み具合によって格段の差が如実に表れ、試験時だけの取り組みでは難しい事はあきらめず。

したがって、今後は漢字・かな共に、例月の条幅作の提出状況が加えられた判定法としたいと考えています。

Cクラスも条幅作品での受験になります。Cクラスも条幅作品での受験になります。Cクラスも条幅作品での受験になります。Cクラスも条幅作品での受験になります。

Dクラス、Eクラスについては、半紙での受験ですが月例競争書の状況も加味して、各々の段位級位が認定されましたが、飛躍が期待される方もたくさん見受けられ頼もしく思いました。

基本的な事ですが、教室名・段位級のな作品や定められた要綱に反している作も見受けられたので、きちんと遵守することもお願いしたいと思ひます。

内閣府公認の公益社団法人である本院の認定を誇りとして、今後とも楽しみながらご活躍賜りますようお願いして総評と致します。

ここに発表された段級位は、変更のあった人のみで十二月課題（十二月二十一日締切分）から適用します。また、この成績は、十二月号に発表された規定、かなの昇級分を加えてありますので、重ねて昇級しません。

Table of exam results for Kanana (かな) and Hard Pen (硬筆) sections, listing names and their corresponding grades/levels.



Table of exam results for the Hairbrush (毛筆) section, listing names and their corresponding grades/levels.

Table of exam results for the Kanana (かな) section, listing names and their corresponding grades/levels.